

## 湘南国際村の活性化について

(湘南国際村活性化検討委員会における議論の整理)

### 1 現行の基本計画の検証

現行の湘南国際村基本計画は、平成 18 年に改訂されたものだが、湘南国際村の活性化を検討する上で、現行の基本計画における実績を検証する必要がある。

#### (1) 前回（平成 18 年）の改訂後の主な歩み

[A 地区]

- ・ 基盤整備が整い、研究・研修機関等の立地が概ね完了し、多くの企業研修や学会、国際会議が開催  
(例) 湘南国際村センターにおける国際会議：平成 20～29 年の 10 年間で 260 件
- ・ 福祉施設等の立地が可能となった地区に、2 つの福祉施設が立地
- ・ 消防署等の立地が可能となった地区に、横須賀市消防局南消防署の湘南国際村出張所が整備
- ・ 店舗等の立地が可能となった地区に、コンビニエンスストア等が立地
- ・ 店舗兼住宅等の立地が可能となった地区に、店舗兼住宅が立地
- ・ 宅地の区画が整備され、住宅の建設が開始
- ・ 自治会館が整備
- ・ 逗子駅から湘南国際村を經由して佐島方面に向かうバスが平成 20 年に新設  
横浜駅から湘南国際村を經由して横須賀方面に向かうバスが平成 18 年に新設され、その後、増便

[B 地区・C 地区]

- ・ 基盤整備が整い、民間事業者から県に無償譲渡され、県有地となる
- ・ 「緑の再生と保全」の場として、植樹活動や里山保全活動などの取組みが開始
- ・ 大楠山に至る横須賀市道が整備され、登山ルートとなる

【取り組むことができた理由】

- ・ 平成 18 年の時点で A 地区の事業用地に空きがある中、B C 地区の研修施設の建設需要が見込めなかったことから、B C 地区に予定していた機能を A 地区に集約した上で、A 地区において研修施設に限定されていた土地の用途規制を見直し、福祉施設等の立地を可能としたため。
- ・ 住民から要望の強かったバス便の改善に向けて事業者にも要望の上、調整を重ねたため。

現行計画における事業スケジュール (○、◇) とこれまで結果 (●、◆)

		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
見直し 土地利用等の		◇改訂基本計画策定													
		●開発変更・地区計画変更手続き													
		○													
		◆													
		◆開発変更の許可、地区計画の変更													
A地区施設整備	居住施設	基盤整備													
		○													
		●													
		入居開始													
		○													
		●													
その他の施設		誘致活動建物工事・利用開始													
		○													
		●													
		●消防署出張所が整備													
		●研修施設が立地													
		●福祉施設（2施設）が立地													
		●研修施設が立地													
		●コンビニエンスストアが立地													
		○													
		●													
		×商業施設が閉店													
		×商業施設が閉店													
		×商業施設が閉店													
		×商業施設が閉店													
BC地区整備		防災工事、緑の再生・保全の整備													
		◇													
		◆													
		●BC地区が県に譲渡（引渡し）ただし原則立入禁止													
		●めぐりの森での植樹活動、 里山保全活動等の実施													
		●公募事業の採択													

## 2 湘南国際村の課題

### (1) 交通 (A地区)

- ・ 逗子駅から湘南国際村センターへのバスが朝夕でも1時間に2本程度で、京急汐入駅から湘南国際村センターへのバスは運行が全くない時間帯もある。
- ・ バスは住民の通勤・通学のほか、研修者、従業員の足となっているが、研修が終了する夕方の時間帯などではバスが満員状態になり、乗り切れないケースも発生している。

### (2) 商業施設 (A地区)

- ・ 平成8年からスーパーマーケットが営業していたが、平成25年に閉店した。その結果、湘南国際村内の商業施設はコンビニエンスストアのみとなり、日用品の買い物は、バス又は自家用車を利用して近隣のスーパーマーケットに行かざるを得ない状況となっている。

### (3) 医療機関 (A地区)

- ・ 週一回診察していたクリニックが平成30年3月に閉院し、これまでよりも遠くの医療機関に頼らざるを得ない状況となっている。

#### 【課題として残っている理由】

- ・ 交通、商業施設、医療機関は民間事業者が行うものであり、利用者数が少ないなど経済的な合理性がなければ事業継続あるいは拡張が困難であったため。

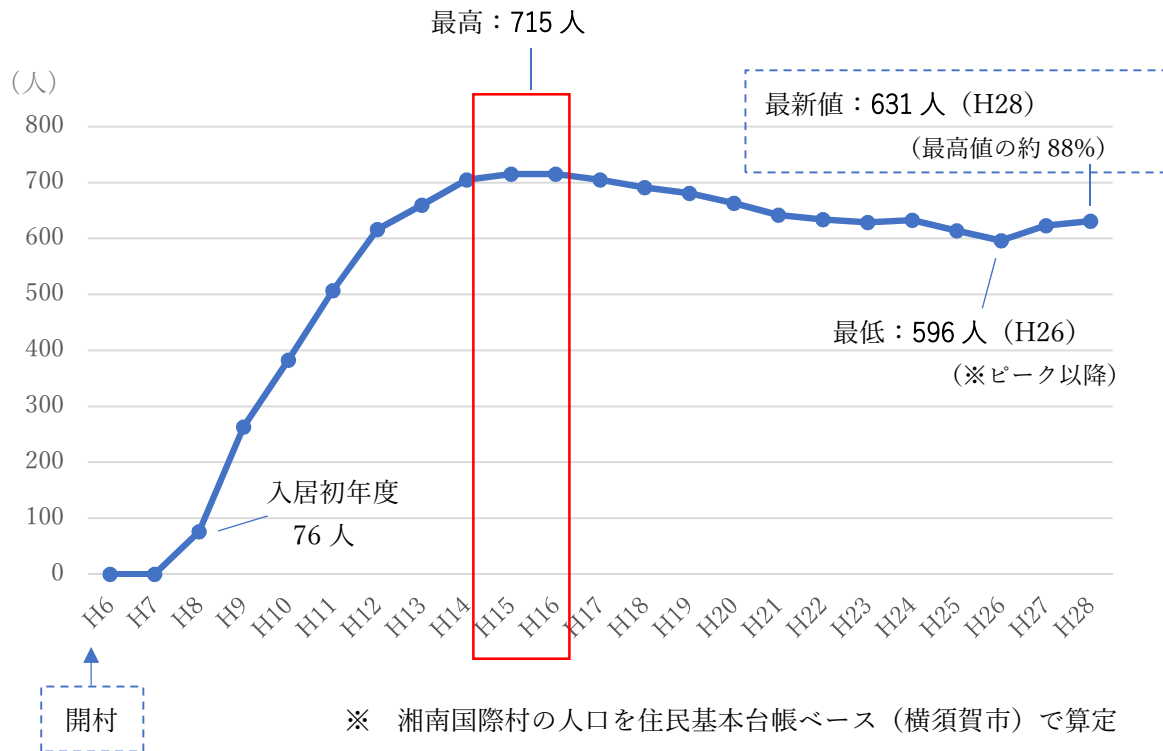
#### ～ 住民アンケートの声 ～

- ・ 医療施設や交通手段、買い物、公共設備が整えば、自然に恵まれた地を離れることなく永住したい

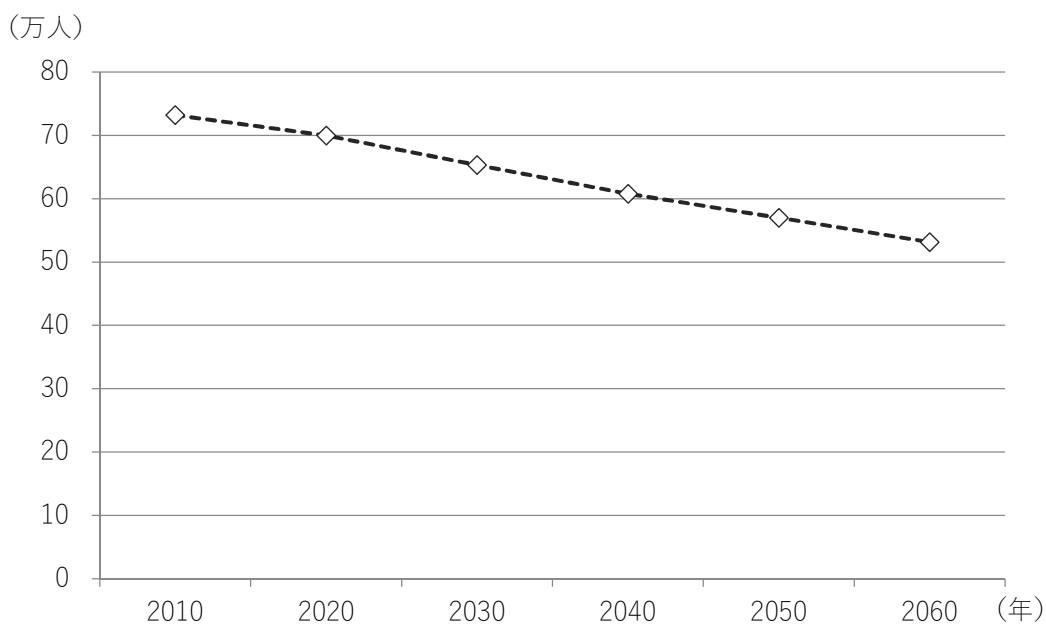
(4) 人口減少 (A地区)

湘南国際村の人口は、平成 15 年、16 年をピークに減少傾向にあり、三浦半島全体で今後も減少が続くと予想されている。

(参考 1) 湘南国際村の人口の推移



(参考 2) 三浦半島の人口の推移

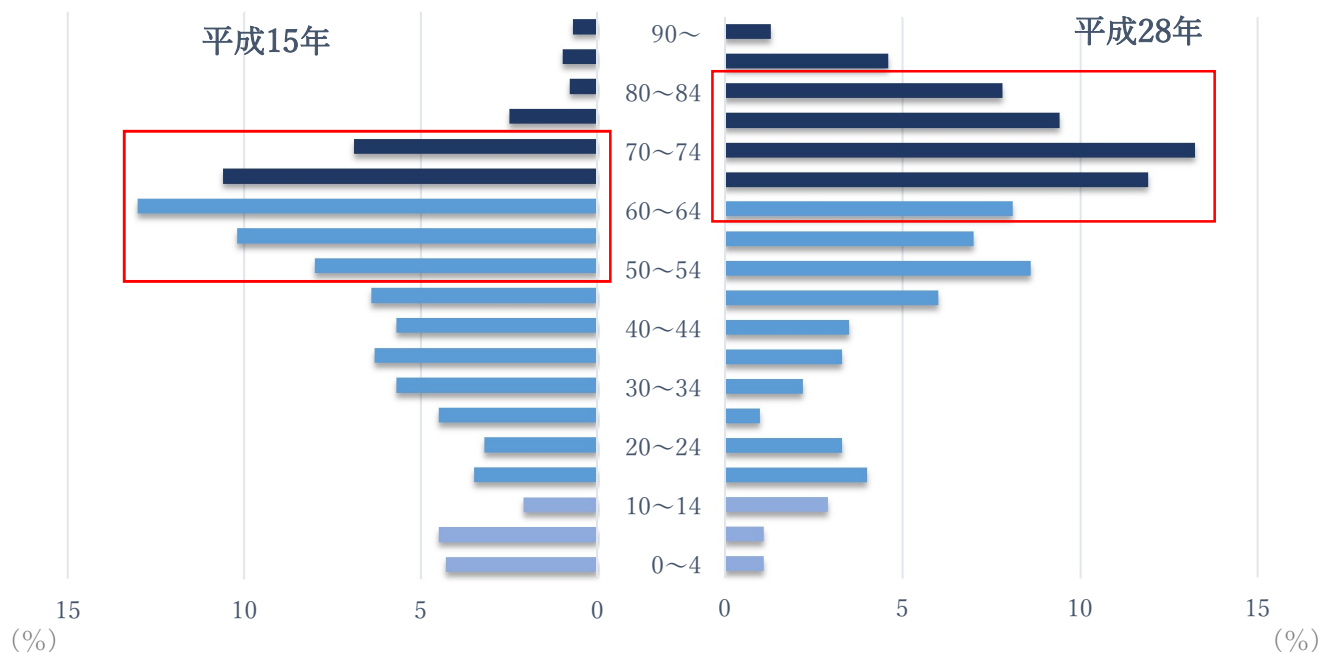


※ 平成 28 年 3 月 かながわ人口ビジョンより抜粋

(5) 高齢化 (A地区)

人口のピークだった平成15年と比べると、十数年の間に高齢者の割合が増加しており、40歳代前半から下の世代の割合が減少している。

(参考3) 人口ピラミッド



※ 湘南国際村の人口を住民基本台帳ベース（横須賀市）で算定

【課題として残っている理由】

- ・ 三浦半島全体で人口減少、高齢化の傾向にある中、湘南国際村では、物件の価格帯等から、そもそも入居時の年齢が高かった。また、交通が不便である等の理由で子ども世代が転居するなどして、人口減少、高齢化が進んだと思われる。

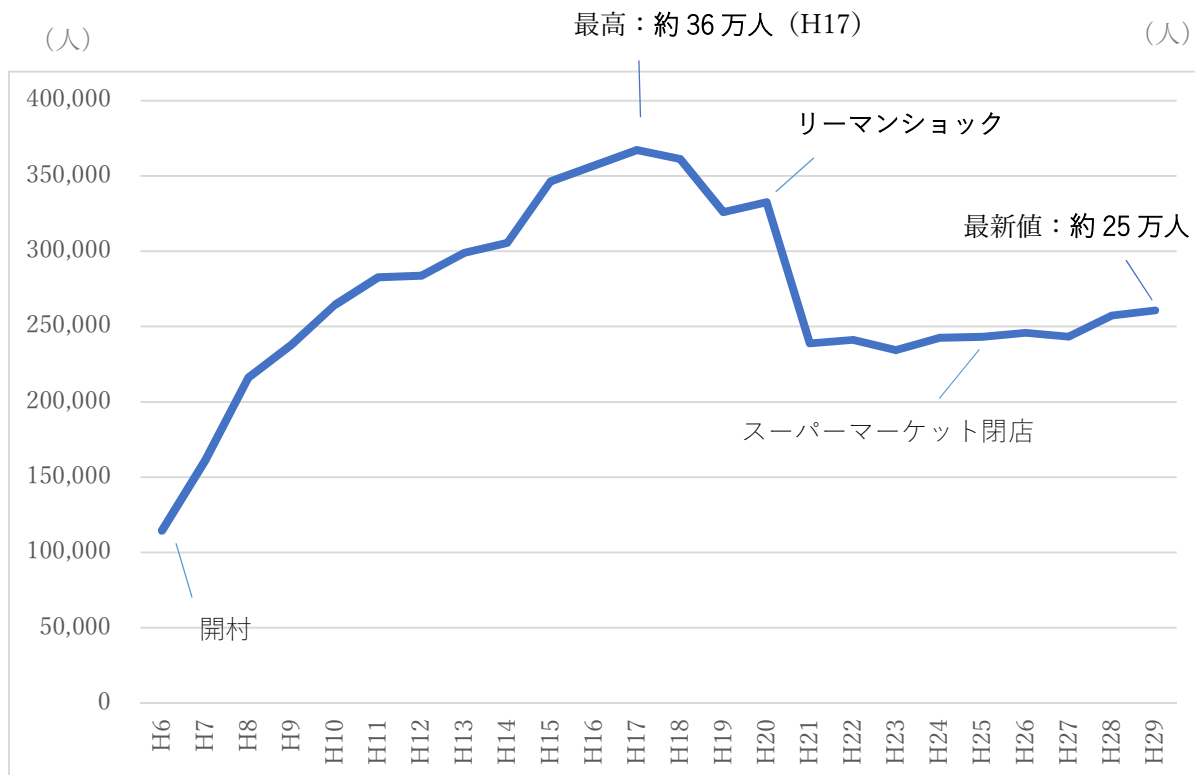
～ 住民アンケートの声 ～

- ・ 高齢者用の住宅や、福祉施設等ができればありがたい。
- ・ 若い世代と高齢者が共生できる村になってほしい。

(6) 来村者数 (A地区、BC地区)

来村者数のピークは平成17年の約36万人だったものの、リーマンショックの後に減少し、約25万人前後で推移している。

(参考4) 湘南国際村の来村者数



～ 住民アンケートの声 ～

- ・ 国内外を問わず多くの人々が訪れたい、魅力ある環境を作ることが必要である。人が集まれば活性化していく。

(7) 湘南国際村センター利用者数 (A地区)

湘南国際村センターの利用者数がリーマンショック前に比べて減少した後、横ばい状態が続いている。

【課題として残っている理由】

- ・ 来村者数、湘南国際村センター利用者数の減少は、宿泊研修需要の減少の影響と推測される。

(8) BC地区の活用 (BC地区)

植樹活動や里山保全活動などが進んでいるものの、活用が十分進んでいない状況である。

【課題として残っている理由】

- ・ BC地区は、アスファルト舗装された横須賀市道以外は「原則立入禁止」の場所であり、NPO等による交流活動として植樹活動や里山保全活動等が実施されているものの、交流の場としての活用が十分でないため。

～ 住民アンケートの声 ～

- ・ 自然を多くの人々が満喫できるようにする。
- ・ めぐりの森を自然と触れ合える場所に。

(9) 情報発信 (A地区、BC地区)

湘南国際村を紹介するホームページがあるが、村の魅力を伝えるために、さらに発信力を強化する必要がある。

(10) 村内外の連携 (A地区)

湘南国際村の入村機関相互の連携のほか、入村機関と住民、村外機関との更なる連携が求められる。

【課題として残っている理由】

- ・ 湘南国際村全体が観光地ではなく、基本的には各企業の研修施設の集まりであり、各施設が自己施設で事業を完結でき、広く一般の方を呼び込む必要がなかったため。
- ・ 村内外の連携が進まなかったのは、情報発信と同様、湘南国際村が基本的には各企業の研修施設の集まりであり、各施設が自己施設で事業を完結でき、他の施設等と連携しなくても成立する施設が多いためことが挙げられる。

これらの課題に対応するため、湘南国際村の活性化及び持続的な発展に向けて、三浦

半島全体の中での位置付け、県・横須賀市・葉山町の政策との連携、民間活力の活用等の観点から、湘南国際村の10年後、20年後を見据えて、中長期的な視点をもって今から対策を考えていくことが重要である。

このような観点から、湘南国際村活性化検討委員会では、主に中長期的な取組みについて検討を進めてきたところであり、これまでの検討委員会の議論において、今後の新たな展開のために必要とされた機能について、次のとおり整理する。



### 3 強化する機能

#### (1) 機能強化の視点

湘南国際村の課題に対応するため、今後、次のような視点で機能を強化する。

#### ア 三浦半島全体の活性化

三浦半島魅力最大化プロジェクト等の取組みと連動させ、湘南国際村の魅力をさらに向上させると同時に、発信力を強化することで、三浦半島の他地域と連携しながら交流人口（その地域を訪れる人）を増やす。それによって民間投資を促進し、サービスの提供や生活環境の向上につなげる、という好循環を生み出す。

＜湘南国際村活性化検討委員会で提案された具体案（取組例）＞

- ・ 大楠山を中心としたハイキング、公園など、三浦半島回遊観光の一環として施設を整備。既存設備との宿泊型回遊観光も（花の公園、芝生広場、フィールドアスレチック等）（再掲）
- ・ 三浦半島の学術研究機関と連携

＜住民アンケートでのご提案・ご意見＞

- ・ 三浦半島観光の宿泊拠点となり得る
- ・ 村外の人が足を運んでくる場にしないと未来がない。そのことで、様々な問題も起きるかもしれないが、大きく方向転換をしないと村としての価値も下がってしまうのではないか
- ・ 交通渋滞がひどい三浦半島だが、緩和のために三浦半島中央道路延伸計画を早期に実行していただきたい
- ・ 三浦半島全体の魅力向上の一つとしての国際村の役割も大切なピースになるはず。「キラリと光る」国際村になるべく、関連する機関、住民等の理解と協力を希望

#### イ 県・横須賀市・葉山町の政策との連携強化

三浦半島魅力最大化プロジェクト等に加え、SDGsや未病改善など、県、横須賀市、葉山町が行っている政策と、村内で行う事業との連携を強化する。

＜湘南国際村活性化検討委員会で提案された具体案（取組例）＞

- ・ 未病の情報発信に取り組む拠点施設「ビオトピア」（大井町）との連携

＜住民アンケートでのご提案・ご意見＞

- ・ 入村機関と住民との連携（入村機関からの「カフェ・インテグラル」の提供等）に大きな魅力を感じている。さらなる頻度の向上、内容の充実、食堂の開放（昼食）を望む

## ウ 湘南国際村センターの更なる活用

入村機関の連携を進めることや、県が所有する研究棟について、新たな視点で活用を図る。

＜湘南国際村活性化検討委員会で提案された具体案（取組例）＞

- ・ ビジネスインキュ研究センター
- ・ 防災とリサイクルを含む「食ラボ」
- ・ シルバー産業のリビングラボ
- ・ 横浜・横須賀地区等とのM I C E連携
- ・ インターナショナルスクール誘致
- ・ アーティスト in レジデンス（宿泊棟も活用）

＜住民アンケートでのご提案・ご意見＞

- ・ 鎌倉への観光客（来日外国人）の受皿として村センターを活用
- ・ 各大学の合宿授業、国際学生のゼミナール等により、国際村が国際学生交流センターとして世界に知れ渡る
- ・ 銀行ATM
- ・ プールの開放
- ・ 宿泊者専用食堂の一般向け営業

## （２）強化する機能

### ア 国際交流拠点機能の強化（主にA地区）

M I C E（国際会議等）の誘致促進など、基本構想に掲げた「国際交流拠点」としての機能を強化する。

＜湘南国際村活性化検討委員会で提案された具体案（取組例）＞

- ・ アフターコンベンション機能
- ・ ナイトタイムエコノミー機能
- ・ 横浜・横須賀地区等とのM I C E連携（再掲）
- ・ インターナショナルスクール誘致（再掲）
- ・ 外国語のテーマパーク
- ・ 外国語村として学生ショートステイ
- ・ 国内で外国語体験（ミニ留学）
- ・ 外国語表記でのサイン看板

＜住民アンケートでのご提案・ご意見＞

- ・ 国際会議などを含む国際交流イベントの開催、運営に住民のボランティア参加
- ・ ホームステイの促進

- ・ 各大学、文科省、経済団体等に呼びかけ、国際村の会議室やホテルを国際交流ゼミナール等に利用
- ・ 全寮制の小、中、高等学校、高専、短大、大学、大学院など堂々と国内外で活躍できる人材育成ができる教育施設（日本人が入校できる）の誘致

## イ 自然環境を生かした交流機能の強化（主にBC地区）

大楠山に連なる豊かな緑の空間が広がるBC地区の自然環境の再生と保全に取り組むとともに、自然を生かした芸術、スポーツ、レクリエーション機能を強化する。

＜湘南国際村活性化検討委員会で提案された具体案（取組例）＞

- ・ 森林ヨガ
- ・ 未病の情報発信に取り組む拠点施設「ビオトピア」（大井町）との連携（再掲）
- ・ 自然＋アート＋健康の野外散策美術館
- ・ アーティスト in レジデンス（宿泊棟も活用）（再掲）
- ・ アートを通じた生涯学習
- ・ 自然樹木葬と市民農園で里山整備
- ・ 日本版ギブ・キッズ・ザ・ワールド
- ・ 週末裏山解放区
- ・ ドッグランを併設した芝生公園
- ・ イヤホン装着型による野外映画館
- ・ 屋外コンサート会場
- ・ 鳥類を呼ぶための計画的な植樹
- ・ 大楠山を中心としたハイキング、公園など、三浦半島回遊観光の一環として施設を整備。既存設備との宿泊型回遊観光も（花の公園、芝生広場、フィールドアスレチック等）（再掲）
- ・ ウォーキングコースの整備
- ・ フォレスト・アドベンチャー施設（自然体験型レクリエーション）
- ・ グランピング施設
- ・ キャンプ、収穫体験できる林間学校
- ・ 「陸」と「海」のスポーツの連携による別荘地的な余暇
- ・ 星空学校、天体観測キャンプ
- ・ フィールドアスレチック施設
- ・ スケートボード施設
- ・ BMX コース施設
- ・ サッカーグラウンド、フットサル
- ・ スポーツクラブ

<住民アンケートでのご提案・ご意見>

- ・ めぐりの森の散策路の拡充
- ・ 海と山の活動拠点本部
- ・ スポーツのできるグラウンド、フィールドアスレチックの設備等を作り、休憩所やトイレ等を設置
- ・ 県立近代美術館や葉山、横須賀に縁のある芸術家との連携
- ・ 森の散策路の拡充と箱根美術館のようなモニュメントを配置
- ・ 芸大の学生さん達の発表の場を提供
- ・ 規制のない子ども野原
- ・ 気軽に森林再生ボランティアに参加できるシステム作り

### ウ 三浦半島における周遊拠点機能の付加 (主にA地区)

三浦半島の中心部に位置する強みを生かし、葉山、横須賀、逗子、鎌倉、三浦といった観光地と周遊する拠点としての機能を付加する。

<湘南国際村活性化検討委員会で提案された具体案(取組例)>

- ・ ヘリポート設置(緊急医療、観光、外国VIP待遇)
- ・ 「自転車の聖地」ブランド化(自転車の駅)
- ・ ゲートウェイ型「道の駅」での交流、情報発信(モーダルコネクト)
- ・ ゴルフ場隣接のショートステイ型リゾートマンション
- ・ ショップとゴルフツアーでリゾートヴィレッジ
- ・ 世界トップクラスのホテルを誘致し、超一流のゴルフ場リゾート&スパを目指す

<住民アンケートでのご提案・ご意見>

- ・ 鎌倉への観光客(来日外国人)の受皿として村センターを活用(再掲)
- ・ 三浦半島観光の宿泊拠点となり得る(再掲)

### エ 魅力創出・発信機能の強化 (A地区、BC地区)

住む人も、訪れる人も、働く人も実感できる村の魅力を創出・発信することで、交流人口の増加を図る。

相模湾と富士山を臨む眺望を誇る、湘南国際村の持つブランド力に加え、最新技術やサービスが生まれるまちづくりを目指す。

<湘南国際村活性化検討委員会で提案された具体案(取組例)>

- ・ 次世代モビリティで村内移動
- ・ 自動運転など実証実験フィールドの提供、既存機関との連携
- ・ EV充電器(ファミリーマート)
- ・ リムジンサービス
- ・ 自動車メンテのガレージサービス

- ・ 三浦半島の学術研究機関と連携（再掲）
- ・ ビジネスインキュ研究センター（再掲）
- ・ 防災とリサイクルを含む「食ラボ」（再掲）
- ・ ペット用施設でアニマルセラピー
- ・ 「道の駅」等で高齢者の働く場
- ・ まちの健康増進センター
- ・ C C R C
- ・ シルバー産業のリビングラボ（再掲）

#### <住民アンケートでのご提案・ご意見>

- ・ 先端技術を行える施設等（こども科学実験宿泊体験、星空観測）
- ・ 先端技術の実証実験が可能なら是非推進
- ・ シェアオフィス。優れた環境でクリエイティブな仕事をさせていただきたい
- ・ テレワーク対応の区割りの事務所
- ・ 「安全で美しい景観都市」を維持するための自治会住民の意識改善（相互の助け合い（よい隣近所）、防災&防犯）
- ・ 自然と人工美の融合による、環境変化・災害に強く、国籍や性別、年齢差等をこえた人々が生き生きと明るく楽しく集える、大規模コミュニティパークを目標に、新しい村づくりをお願いしたい
- ・ ドローンで宅配サービスを
- ・ 新燃料・共用システム・村内外巡回ルート、会員システム（一部住民（受益者）負担）等、自己の車を持たずとも、また、少々体力が落ちても、行動できる、健康寿命を伸ばすための実証実験実施地とし、各機関の参画を促す。総合先端福祉特区を提案する
- ・ 様々な規制を変えて、住んでみたいと思うような街にしてもらいたい
- ・ リタイヤ（退職）した人達が多い事から、リタイヤメントコミュニティ概念を取り入れ、生き生きと気概を持って日常生活が送れるよう、自治会の同好会を含む各機関・組織からの年間予定表を住民に提供し自由に参加
- ・ 村内タクシーのようなシステムがあればもっと積極的に自治会館の催しに加われるのと思う
- ・ IT活用（テレワーク、バーチャル事務所や学習施設）、自然エネルギー発電、自動運転、先端医療などの先進技術と自然の融合した、働き、学び、遊べる国際ナショナル・ビレッジ
- ・ 津波・高潮で沿岸の医療機関等、生活支援拠点が失われる危険性が高い三浦半島の防災拠点として、広い高台にある利点を生かし、総合病院やショッピングセンター（備蓄拠点）を建設

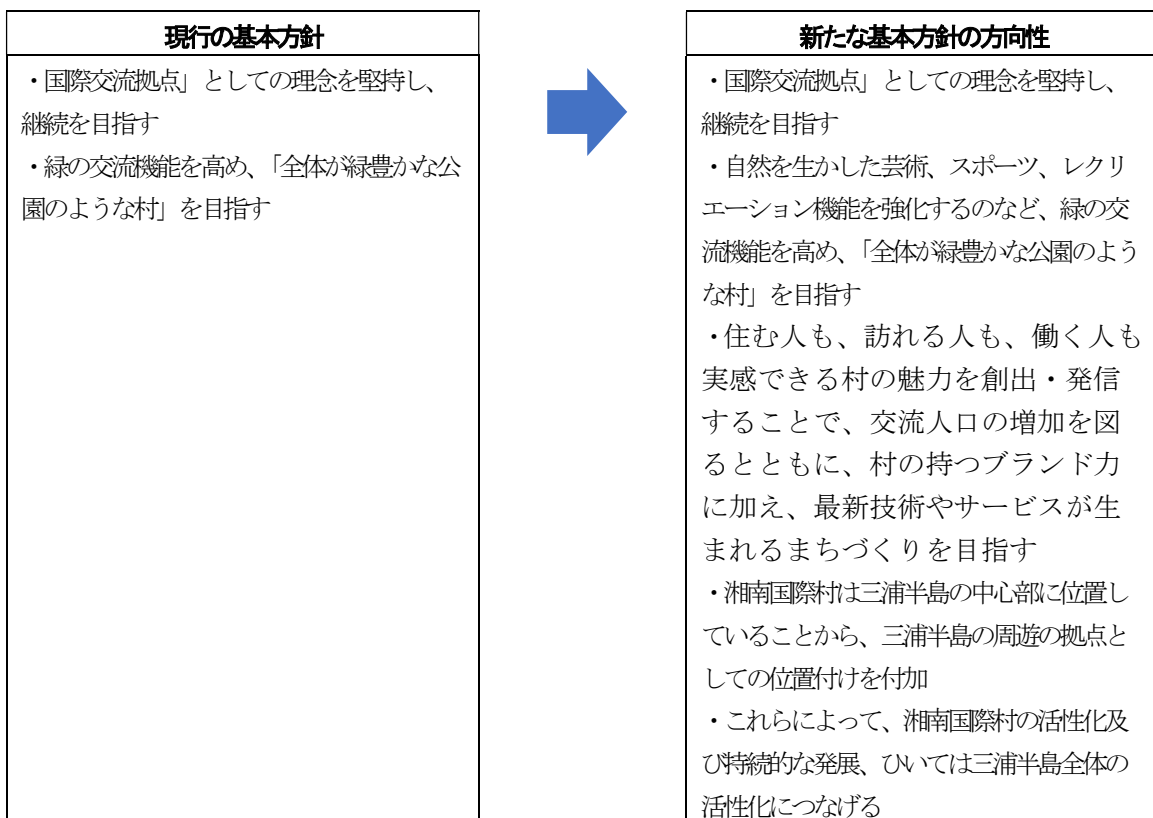
## 4 新たな方向性（目指す姿）

3で強化する機能により、次のような姿を目指す。

- ・ 湘南国際村の基本構想である「緑陰滞在型の国際交流拠点」としての理念を堅持し、継続を目指す。
- ・ 湘南国際村全体が市街化調整区域、近郊緑地保全区域、風致地区等、緑を維持し、活用することが求められている地区であることから、今後も、自然環境の再生と保全に取り組むとともに、自然を生かした芸術、スポーツ、レクリエーション機能を強化するなど、緑の交流機能を高め、「全体が緑豊かな公園のような村」を目指す。
- ・ 住む人も、訪れる人も、働く人も実感できる村の魅力を創出・発信することで、交流人口の増加を図るとともに、村の持つブランド力に加え、最新技術やサービスが生まれるまちづくりを目指す。
- ・ 湘南国際村は三浦半島の中心部に位置していることから、三浦半島の周遊の拠点としての位置付けを付加する。

⇒ これらによって、湘南国際村の活性化及び持続的な発展、ひいては三浦半島全体の活性化につなげる。

- 湘南国際村基本計画における現行の基本方針と、新たな基本方針の方向性（検討委員会の提案）



## 5 地区の方向性


### (1) A地区の方向性

- ・ A地区は、現計画では「村の理念を実現する地区」に位置付けられており、前回の改訂により、新たに福祉施設などの立地が進んだ。
- ・ これまでも、村の中核施設である湘南国際村センターを中心に、「村の理念を実現する地区」として様々な事業を展開してきたが、今後も、国際交流拠点としての一層の機能強化に加え、最新技術やサービスが生まれるまちづくり、三浦半島の観光地との周遊性の向上などにより、湘南国際村の機能の更なる充実、住む人、訪れる人、働く人が実感できる魅力の向上を図る。
- ・ これらによって、交流人口を増やし、民間投資を促進することで住民の皆様から要望の強いバス便の確保や商業施設の充実等といったサービスの提供、生活環境の向上につなげるとともに、コミュニティ形成の促進等、地域社会としての村の熟成を推進し、国際交流拠点として将来にわたって持続していくようなまちづくりを進める。

### (2) B C地区の方向性

- ・ 今後も、大楠山に連なる緑を生かした交流機能の充実を図るため、B C地区を「大楠山の緑を活用した地区」とし、緑の再生と保全を図りながら、村内居住者や来村者が憩い、安らぎ、学び、交流するとともに、健康を育む場としての緑の空間の創造と、緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める地区として、自然環境を生かした芸術、スポーツ、レクリエーション機能を強化することによって、活用を促進する。
- ・ 仮設駐車場として使用している箇所については、A地区に準じた機能の充実を図る。

■ 湘南国際村基本計画における現行の「地区の方針」と新たな「地区の方針」の方向性（検討委員会の提案）

地区	現行の「地区の方針」	目指す姿	地区	新たな「地区の方針」の方向性
<b>A地区</b>	「村の理念を実現する地区」 「村の理念を実現する地区」として新たに位置付け、B地区及びC地区で計画していた交流機能をA地区へ集約し、湘南国際村機能の充実を図るものとします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流拠点として継続</li> <li>・全体が緑豊かな公園のような村</li> <li>・住む人も、訪れる人も、働く人も実感できる村の魅力を創出・発信するとともに、最新技術やサービスが生まれるまちづくり</li> <li>・三浦半島の周遊拠点</li> </ul>	<b>A地区</b>	「村の理念を実現する地区」 これまでも、村の中核施設である湘南国際村センターを中心に、「村の理念を実現する地区」として様々な事業を展開してきたが、今後も、国際交流拠点としての一層の機能強化に加え、最新技術やサービスが生まれるまちづくり、三浦半島の観光地との周遊性の向上などにより、湘南国際村の機能の更なる充実、住む人、訪れる人、働く人が実感できる魅力の向上を図る。
<b>B地区</b> <b>C地区</b>	「大楠山の緑を活用した地区」 大楠山に連なる豊かな緑を生かした、交流機能の充実を図るため、B地区及びC地区を「大楠山の緑を活用した地区」と位置付け、緑の再生と保全を図り、村内居住者や来村者が憩い、安らぎ、学び、交流するとともに、健康を育む場としての緑の空間の創造と、緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める地区とします。			<b>B地区</b> <b>C地区</b>